

2005

第 17 号(2006.2.15)発行 国絵図研究会 〒310-8512 水戸市文京 2 丁目 1-1
茨城大学教育学部小野寺研究室 Tel&fax 029-228-8294

国 絵 図 ニュース

第 19 回 国絵図研究会 新湊大会のお知らせ

野積正吉先生(射水市新湊博物館)のお世話で、下記要項の通り新湊大会を開催します。ふるってご参加ください。

開催日 2006 年 3 月 17 日(金)～18 日(土)

集合場所 3 月 17 日(金)13 時 5 分 JR 小杉駅正面(市のバスが迎えに来ます)
13 時 20 分 射水市新湊博物館(新湊市博物館から改称)
富山県射水市鏡宮 299 TEL0766-83-0800

交 通 JR 東京 9:28(とき 315)ー越後湯沢(はくたか 6 号)ー12:49 富山
富山 12:53(普通)ー13:04 小杉
JR 大阪 9:42(サンダーバード 11 号)ー12:44 高岡
高岡 12:47(普通)ー12:55 小杉

日 程 3 月 17 日(金)

13:30～15:00 企画展「最古の国絵図を読む」展示中の南葵文庫国絵図
(越中・加賀・能登)熟覧(写真大パネル)

研究報告

15:00～16:00 小野寺淳・平井松午・池澤鉄平「絵図学の構築ーGISによる国絵図研究ー」

16:00～16:30 渡辺誠「石黒信由と遠藤高環の測量器具と測量方法」

16:30～17:00 野積正吉「南葵文庫蔵の越中・加賀・能登国絵図について」

17:20～18:30 「今後の研究会活動について」打合会

19:30～ 懇親会(第一イン新湊 6 F)

宿泊 第一イン新湊 約 14,000 円(懇親会・朝食費等込み)

3 月 18 日(土)

9:00～9:30 射水市新湊博物館展示室 1・2 見学

9:30～12:00 高樹文庫絵図熟覧

熟覧ご希望の絵図があれば、事前にお申し込みください。

博物館 野積まで nozumi_masayoshi@city.imizu.lg.jp

博物館へ直接お越しの方は、JR 小杉駅よりタクシーで 15 分(約 1,500 円)です。

JR 高岡駅よりタクシーで 25 分(約 2,500 円)です。

第一イン新湊に宿泊をご希望される方は、同封の葉書にてお申し込みください。

企画展「最古の国絵図を読むー越中・加賀・能登」2006 年 3 月 2 日(木)～4 月 23 日(日)

初日 博物館からホテル(第一イン新湊)まではタクシーで移動

2 日目 ホテルから博物館までは市のバスが迎えに来ます

同封はがきでお申し込みください。申し込み締め切りは、3 月 5 日必着です。

申込先: 934-0049 富山県射水市鏡宮 299 射水市新湊博物館内
野積正吉 TEL0766-83-0800

正保常陸国絵図を写す人々

小野寺 淳

茨城県域では、江戸中期から明治前期にかけて、地図制作者が数多く生まれている。2005年度日本地理学会秋季学術大会が茨城大学水戸で開催されるのを契機に、県内6つの博物館と連携し、共通テーマ「茨城が生んだ江戸時代の地理学者たち」展を同時開催していただいた。財団法人幕末と明治の博物館では「国絵図の世界—古地図にみる茨城—」が開催され、明治大学図書館（蘆田文庫）所蔵の元禄日本総図、国立公文書館所蔵の元禄常陸国絵図（パネル展示）に加え、真壁町、境町などの旧家所蔵の常陸国絵図、下総国絵図などが展示された。常陸国や下総国の国絵図が一同に展示されたのは、今回が初めてである。高萩市歴史民俗資料館では「世界に広がる赤水図—長久保赤水資料展—」、水戸市立博物館では「古地図からみえる風景—城下町水戸の変遷—」、土浦市立博物館では「土浦の地理学者」、古河歴史博物館では「鷹見泉石の世界図・日本図」、伊奈町立間宮林蔵記念館では「間宮林蔵」の各展示が行われた。

さて、長久保赤水をはじめ、山村才助、沼尻墨僊、間宮林蔵、鷹見泉石、酒井喜熙のほかにも、木村謙次、鶴峯戊申、亘喜左衛門、喜熙の息子で明治期に活躍した捨彦もまた、茨城が生んだ地理学者といえる。木村謙次は1752年に現在の常陸太田市天下野で生まれ、近藤重蔵・最上徳内の従者として択捉島に渡ったことで知られる（詳細は吉澤義一著『北方領土探検史の新研究』参照）。鶴峯戊申（彦一郎）は1788年に豊後国臼杵で生まれ、水戸藩に招聘されて開国論を展開した国学者（鈴木暎一「鶴峯戊申の思想」茨城県史研究9参照）であり、「常州十一郡全図」の作者でもあった。亘喜左衛門（僊幽）は1810年に常陸大宮市若林で生まれ、天保検地の絵図師としても活躍した。

このように茨城は著名な地理学者を輩出した地域であり、その背景には当時の地理情報を知り、学ぼうとする多くの人々がいたことを忘れてはならない。旧家では刊行図とともに、蝦夷図・世界図・国絵図などの手書きの絵図が見出される。なかでも興味深いのは、およそ4分の1の正保常陸国絵図の模写図が多い点である。管見では、表1に示した14点が現存する。約1メートル四方に及ぶ彩色絵図であり、これらを正保常陸国絵図の考証図と呼ぶことにする。

ところで、江戸幕府撰正保常陸国絵図の原寸大の写本は伝来しない。このため、考証図は江戸幕府撰正保常陸国絵図を推定する上でも重要である。郡付石高や村名に若干の誤写もみられるが、考証図の図形と記載内容はいずれもほぼ同一である。太平洋の舟路は引かれていないが、利根川・霞ヶ浦・北浦の舟路は引かれている。道は朱線が引かれているが、大道・小道の区別や一里山も表現されていない。村形、所領区分はなく、村高の記載もない。しかし、郡ごとに郡の範囲を色塗りし、郡付石高は石以下の単位まで記載されている。いずれにしても、「写す」には時間も経費も要したはずである。

表1 正保常陸国絵図の考証図一覧

絵 図 名	年 次	法 量 (cm)	所 蔵 先
常陸国之図	享保 13 年(1728)写	91×120	京都大学総合博物館
常陸国絵図	宝暦 8 年(1758)	101.5×130.5	茨城県立歴史館
常陸国絵図	寛政 5 年(1793)	121×200	茨城県立図書館
常陸国図	寛政 6 年(1794)	96×134	船橋市西図書館
常陸国絵図	-----	100×132	船橋市西図書館
常陸国図	-----	102×129.6	明治大学図書館
常陸国絵図	-----	96×134	個人蔵(筑西市)
常陸国絵図	-----	102×134	個人蔵(桜川市)
常陸国絵図	-----	96×130	個人蔵(桜川市)
(常陸国絵図)	-----	109×120	個人蔵(境町)
常陸国絵図	-----	129×140.5	茨城県立図書館
常陸国図	-----	131×168	茨城県立図書館
常陸国絵図	-----	-----	個人蔵(世田谷区)
常陸国絵図	-----	-----	東京大学史料編纂所

このような「絵図を写す」行為が行われた理由を考えることは、当時における人々の学問への取り組み、また情報の伝達を解明することに繋がっていく。考証図で最も古いのは1728年であるが、盛んに写されたのは18世紀中頃からである。一例を示そう。真壁町の医者で、私塾を開いた泉田千崖は千人以上の子弟を教育したといわれる（真壁町歴史民俗資料館学芸員寺崎大貴氏の御教示による）。門弟の飯泉穰介、吉原嘉兵衛、新井包保は、いずれも正保常陸国絵図を写している。100年ほど前の江戸幕府撰正保常陸国絵図を、おそらく控図さえ見たことがなかったにもかかわらず、なぜ写したのであろうか。この頃、現実に役立つ学問を重視した立原翠軒の影響などから、民間向学が高まったという（鈴木暎 - 『水戸藩学問教育史研究』による）。こうした後期水戸学における地図への関心は、その時代背景とともに、学問に関心を寄せる人々のネットワークを通して、常陸・下総両国に広まったのではないだろうか。

これからの古地図研究の一つの課題は、古地図がいかに利用されたか、さらに古地図を写す行為とその背景にあるネットワークとの関係性の解明が重要であろう。

【付記】 本稿は、2005年9月18日、茨城大学公開講演「茨城が生んだ地理学者たち」での報告の骨子である。講演をいただいた川村博忠先生、平井松午先生、杉本史子先生、玉川里子先生に、この場をお借りし、御礼申し上げます。

国絵図研究会編『国絵図の世界』が柏書房より刊行され、高評を博した。これからの国絵図研究会の活動では、古地図に関する丹念な調査・研究を継続するとともに、近世絵図の所在、書誌情報、画像情報などを広く公開していくことが必要であろう。

平成17年度大分県立歴史博物館冬季企画展
「殿様のコレクションー白杵藩と絵図ー」展示図録のご案内

- 1 書名 : 「平成17年度企画展 殿様のコレクションー白杵藩と絵図ー」
- 2 発行年 : 平成17年12月16日
- 3 編集 : 大分県立歴史博物館 (平井義人)
- 4 規格 : A4 48頁 カラー40頁
- 5 執筆 : 川村博忠 (東亜大学教授)
岡村一幸 (白杵市教育委員会文化財課)
平川 毅 (大分県立歴史博物館学芸員)
平井義人 (同 主幹学芸員)
- 6 目次 :
ごあいさつ..... 2
目次..... 3
凡例..... 4
白杵領内の図..... 5
国絵図と端絵図..... 11
城合戦国々絵図..... 21
日本の図・異国の図..... 36
絵図をめぐる史料..... 42
出品リスト..... 45
主要参考文献/協力者一覧..... 48
- 7 掲載絵図 : 豊後国八郡絵図 (慶長豊後国絵図)・日向高橋秋月氏所領図 (慶長日向国絵図)・豊後一国之絵図 (正保)・元禄年中御改豊後国絵図控・豊前国絵図 (元禄)・九州之図・長崎港絵図・江戸全図 (正保江戸図) 海添組仁王座村分間量地絵図・阿波国飯 (渭) 津城図 (徳島城図)・備中国図 (寛永)・伯耆国図 (寛永)・出雲之国図 (寛永)・世界之図 (坤輿万国全図写) 以下 総点数42点
- 8 掲載史料 : 城合戦国々図目録・豊後国絵図御改覚書・豊後国郷帳・浦絵図添書・元文二年日記 (系図方日記)・主図合結記
- 9 頒布価格 : 1,000円
- 10 頒布取扱 : 大分県立歴史博物館振興会
〒872-0101 大分県宇佐市高森字京塚 (大分県立歴史博物館内)
TEL 0978-37-2100
FAX 0978-37-2101
- 11 その他 : 図録の郵送頒布に応じます。詳細は上記にご連絡下さい。

↑平井義人先生よりのご案内でした。

編集子よりの報告『国絵図の世界』は、半年ですでに9割ほど完売しました。会員の皆様のご協力の賜物です。深くお礼申し上げます。

ニュース編集担当・・磯永和貴 〒837-0912 福岡県大牟田市大字三池 895-1
Tel & fax 0944-53-5859 mail アドレス isonaga@k3.dion.ne.jp